

先輩監督官からのメッセージ



栃木労働基準監督署

安全衛生課長

長田 淳一

平成18年度任官（A監）



Q：監督官になったきっかけは？

- 私が監督官になったきっかけは、父が監督官だったからです。とはいえ、最初から監督官になりたかったからではなく、むしろ、父の仕事の内容は「労働者を助ける仕事」くらいにしか理解しておらず、私自身はなんとなくの志で地元の自治体に勤めたいと思っていましたので、監督官試験を受験するつもりはありませんでした。
- そんなある日、民間企業に勤めている友人から、無資格でフォークリフトを運転させられる、との相談を聞いたため、その友人を父に会わせたと、父が的確にアドバイスしている様子を見て、素直にかっこいい!!と感じ、私も労働問題で困っている労働者を助けて、と監督官を目指すことにしました。

Q：監督官の魅力は？

- 労働条件の確保・改善や労働災害の防止など、多くの方が身を置く「労働の場」をより良くすることに携われる、というのは、監督官の大きな魅力です。
- また、監督官はあらゆる業界の企業と接することができます。例えば大きなビルをどのように建築していくか間近で見ることが出来たり、中には普段からよく食べていた食品が、知らずに監督した企業で作られていたりなど、刺激に富んださまざまな経験が出来る仕事です。

Q：これまでの経験で印象に残っていることは？

- 数億円の賃金不払い事件から下着泥棒で捕まった労働者の聴取など、多くの印象に残る経験をしました。監督官2年目の時に捜査主任として初めて送致した死亡災害の事件が一番印象に残っています。
- 鉄塔の建設現場において、脚部を固定するための縦穴を重機で掘削し、また、重機が届かない部分は作業員が縦穴内に入って掘削作業を行っていたところ、重機が誤って作業員の頭部に接触してしまい、死亡するという災害でした。亡くなった労働者の方はまだ二十歳と若く、遺族は泣き崩れていました。
- なぜ安全な作業方法を取らなかったのかと憤りを覚えるとともに、このような悲惨な災害は二度と発生させたくないと強く決意しました。

監督官を目指す方へ！

- 監督官を目指すにあたって、文系だから、理系だからと不安になる必要はありません。監督官の業務は多岐にわたるため、幅広い知識が必要になりますが、研修制度が充実していますので、そこで様々な経験を積むことができます。
- ぜひ、みなさんと栃木労働局の一員として一緒に働くことを楽しみにしています！